

シンポジウム 2 SY2-3 日本高気圧潜水医学会関東地方会の現状

土居 浩

牧田総合病院 高気圧酸素治療センター

【はじめに】

最近関東地区でも 2 種装置の施設減少や 1 種装置の撤退で危機感を感じている状態でなんとか食い止めるためにも啓蒙活動を行っている現状を報告する。

【結果】

北里大学、千葉大学関連の 2 種装置の撤退が関東では痛手である。全国的にも大学病院の撤退が危機的状態になっているなかで、鳥取大学の復活や磐城医療センターでの 2 種装置の復活もあったことが救いである。関東地方会は懇話会の頃より日本医大第一外科が中心になっていたが、現在は高木元先生の循環器科で 2 種装置の更新が行われ、昨年日本医大主催で開催された。また減圧症に関しては小田原セミナーを関東地方会のもとで開催が継続されている。これは伊豆のダイバーメンバー達の強力のおかげである。本年も昭和大学豊洲病院主催のもと 11 月に開催される。

【考案】

最近高気圧酸素治療（HBO）装置での事故があり、安全の面でも医師だけでなく、装置関連の会社、臨床工学士、看護師達とも連携することが重要な点であることを強調していくつもりである。また今学会のテーマである連携が地方会の中での主課題であることは言うまでもない。地方会の委員長としては、中国・東北地方の施設も現存の地方会に参加して全体で盛り上げる所存である。